

(2020年度)

1 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は20ページ, 4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで, 問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に, 試験監督者から指示があったら, 解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し, 所定の欄に氏名を記入すること。次に, 解答用紙の右側のミシン目にそって, きれいに折り曲げてから, 受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し, 机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら, この問題冊子が, 上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は, HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能, 計算機能, 辞書機能を使用してはならない。また, スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は, 解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで, そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき, マーク欄からはみ出したり, 白い部分を残したり, 文字や番号, ○や×をつけたりしてはならない。また, マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は, 消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり, 破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章は、古代日本における仏教の伝来から、平安仏教の成立までをまとめたものである。よく読んで、以下の問いに答えなさい。

『日本書紀』によると、仏教の伝来は、欽明天皇13年、百済の聖明王が、「釈迦^(a)仏金銅像一軀・幡蓋若干・経論若干巻」をもたらしたことに始まるという。仏に対する国家的崇拜の是非を決めかねた天皇は、外交上の理由から是とした大臣（ア）に命じ、試みに崇仏させてみることにした。しかし、神祇信仰を奉じる大連（イ）や大夫中臣鎌子がこれに反対、ちょうど流行し始めた疫病の原因を（ア）の崇仏に求め、彼の整えた向原寺を破却し火を放った。これが世にいう〈崇仏論争〉だが、一連の記事は漢籍や仏典を切り貼りして構成されており、史実として疑わしいとの見解もある。少なくとも民間レベルでは、より早い時期に、仏教の伝来があったものと考えられよう。ただし、当時は中国南朝の（ウ）の武帝が仏教治国策を進めており、百済もその影響下にあつて、東アジアの国際外交において仏教の持つ意味が大きくなっていた。百済から多くの文物を得ていた倭にとって、^(b)仏教の需要は高まっていたといえよう。

用明天皇が崇仏を遺命して崩御すると、皇位継承をめぐる争いのなかで、排仏派の大連（エ）、大夫中臣勝海が滅ぼされた。後継の崇峻天皇の治世が^(c)短命に終わると、その混乱を収束させるように、朝廷第一の実力者大臣（オ）の姪に当たり、敏達天皇の太后でもあった（カ）天皇が即位した。中国では（キ）がついに南北朝を統一し、文帝も仏教に基づく政策を行って、その政治的価値は急速に高まっていた。用明天皇の皇子であった厩戸王は、^(d)（オ）の政権に協力し、また仏教の普及にも努めた。この厩戸王の建てた熊凝^{くまごりしやうじや}精舎を前身と伝える大官大寺は、直接的には舒明天皇によって創建されたものだが、蘇我氏に仏教興隆の権限が独占されていた飛鳥時代にあつて、初めて王権によって建立された寺院であった。のち、皇極天皇4年、（ク）のクーデターによって蘇我本宗家が滅ぼされると、大王家も本格的に仏教興隆を進めていくことになる。平安時代に編まれた『扶桑略記』によれば、（カ）天皇32年4月18日条には、「此の時、本朝の寺四十六院、僧八百十六人、尼五百六十九人」と記すが、持統天皇6年9月条には、「勅有りて、天下の諸寺を^{かぞ}計へしむるに、^{およ}凡そ五百四十五寺」とあり、

(ケ)年弱の間に、倭国の寺院数は(コ)倍ほどに増えた計算になる。同書には相応の史料批判が必要だが、近年の発掘成果によれば、この数字はほぼ実態を反映したものとみてよいようである。王権の後押しもあり、この7世紀後半から8世紀にかけて、仏教は急速に列島各地へ広まったとみられよう。得度を国家的管理のもとに置く制度、僧尼を統括するための(あ)や法令なども次第に成立、僧尼を一種の官僚として国家へ奉仕させる仕組みが整えられていった。一方、民間でも僧侶たちの活動がみられ、国宝に指定されている朱鳥元年書写『金剛場陀羅尼経』は、僧宝林が率いる河内国志貴評の「 A 」によって成立したことが確認されている。

このような、仏教と国家との関係が最も顕著に現れるのは、(サ)天皇から(シ)天皇の治世、奈良時代の半ばから後半にかけてだろう。天平13年、東国行幸から南山城の木津付近に到着した(サ)天皇は、この地を都と定め、国分寺創建の詔を発する。これは、諸国に『(ス)』に基づく国分僧寺、『(セ)』に基づく国分尼寺を造り、仏教の験力で国家を守護しようとしたもので、則天武后の大雲寺創建に倣った施策であろうと考えられている。しかし、僧寺・尼寺のセットは独自の発案で、(ソ)の意向による可能性が高いとの見解もある。彼女と(サ)天皇との間に生まれた基王は、生後1ヶ月余りで立太子するも翌年には夭逝、若草山に菩提を弔う仙房が建てられた。それはやがて、宮廷へ『(タ)』の思想を宣揚した(い)の活躍によって、大和国金光明寺、東大寺へと発展を遂げていく。天平15年になると、(サ)天皇は、『(タ)』や『梵網経』の思想に則り、宇宙の中心に坐す盧舎那仏を紫香樂宮に造立し始める。それを宣言した詔は、すべての国民を大仏造立の(う)となすもので、事業の達成を通じて国家への求心力を高めようとする意図が隠されていた。天平勝宝4年、その開眼供養会は、インド僧の菩提僊那らを招いて盛大に行われたが、かかる劇場型の仏教国家建設は、国家財政に危機的な状況をもたらした。

(サ)天皇の遺命を忠実に守ろうとした娘の(シ)天皇が、仏教国家の最終段階に僧道鏡を皇位へ即けようとして失敗、失意のうちに亡くなると、当時正三位大納言の地位にあり皇室の長老でもあった(チ)が、藤原永手や藤原百川の策謀により即位した。この光仁天皇は、財政の再建を進めて仏教への統制を強

め、次代の桓武天皇にもその姿勢は受け継がれた。新たな平安王朝には、政治色
を濃厚に持った南都仏教に対抗するかのよう^(e)に、中国の最新の教説に基づく
(ツ)、(テ)が輩出し、以降の日本仏教の基礎を形成していった。

問1 文中の空欄(ア)～(テ)に当てはまるもっとも適切な語句、もしくは数字を、次の中から1つずつ選んで記号で答えなさい。

- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| ① 10 | ② 30 | ③ 50 | ④ 70 |
| ⑤ 90 | ⑥ 阿倍比羅夫 | ⑦ 阿弥陀経 | ⑧ 乙巳の変 |
| ⑨ 大伴金村 | ⑩ 葛城王 | ⑪ 華嚴経 | ⑫ 元明 |
| ⑬ 孝謙 | ⑭ 光明子 | ⑮ 最勝王経 | ⑯ 聖武 |
| ⑰ 称徳 | ⑱ 浄土教 | ⑲ 浄土宗 | ⑳ 白壁王 |
| ㉑ 真言宗 | ㉒ 壬申の乱 | ㉓ 推古 | ㉔ 宋 |
| ㉕ 隋 | ㉖ 蘇我稻目 | ㉗ 蘇我馬子 | ㉘ 蘇我蝦夷 |
| ㉙ 天台宗 | ㉚ 唐 | ㉛ 藤原宮子 | ㉜ 法華経 |
| ㉝ 法相宗 | ㉞ 物部尾輿 | ㉟ 物部守屋 | ㊱ 文武 |
| ㊲ 梁 | | | |

問2 下線部(a)について。この仏教伝来とは異なる年代を伝える文献を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- | | |
|-----------|-------------------|
| ① 『古事記』 | ② 『元興寺伽藍縁起并流記資財帳』 |
| ③ 『天寿国繡帳』 | ④ 『長谷寺法華説相図銘』 |

問3 下線部(b)について。百済から将来された文物ではないものを、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----|-----|------|------|
| ① 易 | ② 曆 | ③ 儒教 | ④ 律令 |
|-----|-----|------|------|

問4 下線部(c)について。崇峻天皇の治世が短命に終わったのはなぜか。その理由を説明した文章として最も適切なものを、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 蘇我入鹿が、古人大兄らと謀り、蘇我氏の専制を阻害する山背大兄王を自殺に追い込み、朝廷が混乱したため。
- ② 蘇我馬子が、東漢直駒を利用し、不和となった崇峻天皇を謀殺したため。
- ③ 治世が始まって数年後、中大兄皇子が中臣鎌足と謀って王族中心の政治形態を実現し、軽皇子が即位したため。
- ④ 廃仏の崇りを受け、疫病に罹患して崩御したため。

問5 下線部(d)について。どれほど主体的であったかには議論があるものの、厩戸王は、(カ)天皇の治世における改革推進者の1人であったと考えられている。次に掲げた文章のうち、『日本書紀』の記事で、(カ)天皇の治世の施策として書かれているものはどれか。もっとも適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 昔在の天皇等の立てたまへる子代の民、処々の屯倉、及び、別には臣・連・伴造・国造・村首の所有てる部曲の民、処々の田莊を罷めよ。仍りて食封を大夫より以上に賜ふこと、各差あらむ。
- ② 頃者百姓漸く多くして、田池窄狭なり。望み請ふらくは、天下に勧め課せて、田疇を開闢かしめん。其の新たに溝池を造り、開墾を営む者有らば、多少を限らず、給ひて三世に伝へしめん。
- ③ 開皇二十年、倭王あり、姓は阿每、字は多利思比孤、阿輩雞弥と号す。使を遣して闕に詣る。上、所司をしてその風俗を訪はしむ。
- ④ 国司・国造、百姓に斂めとることなかれ。国に二の君なく、民に両の主なし。率土の兆民、王を以て主とす。

問6 下線部(e)について。空欄(ツ)の宗派は、空欄(ス)(セ)
(タ)に当てはまる經典の、いずれかを根拠とする教えである。それはど
れか。もっとも適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

問7 空欄 に当てはまる語句は、仏教的な作善をなすため、出自や階
層の区別を超えて集まった人びとが、相互に協力する集団を意味する。文中
の(あ)~(う)のうち、 と同じ語句が当てはまるものはど
れか。もっとも適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

2 次の文章は中世の城館について解説したものである。これを読んであとの問い
に答えなさい。

文治5年、西暦(ア)年、平泉の藤原氏を攻め滅ぼすために、大軍を率いて
奥大道を進み陸奥に向かった源頼朝軍は、壮大な防御施設に驚く。鎌倉幕府の歴
史書(イ)によれば、藤原(ウ)は信達盆地の北に位置する「阿津賀志山」と
「国見宿」との間に「口五丈(=約15メートル)の堀」を構築していた。その遺構は、
福島・宮城の県境に近い標高289メートルの厚樫山の南麓から阿武隈川の西岸ま
で3キロメートル以上にわたり残存している。鉄道や道路で分断され、耕地に
なっている部分も多いが、「二重堀」地区などでは地表でも二重の堀の跡を視認で
き、発掘調査により厚樫山の南斜面で二重堀と三重の土塁の跡が検出され、西堀
西壁と東堀東壁との幅は15メートルに達することが確認された。

頼朝は、藤原氏の本拠地でも施設の壮大さに驚いたことだろう。奥州平泉は、
初代藤原(エ)が建立した中尊寺金色堂や2代(オ)が建立した(カ)の
浄土庭園が世界文化遺産にも登録されてよく知られている。しかし、歴史的に
は、北上川を見おろす台地上に立地する(キ)遺跡も重要である。北上川に削
られた北側を除いて、幅約10メートル、深さ約2~5メートルの堀が巡り、東西
300メートル、南北200メートルほどの空間を形成している。遺構の中心的な年代
は12世紀で、遺跡の南側には藤原(ク)が宇治の平等院を模して建立した

(ケ)跡や、(ク)の日常の居所の推定地がある。(イ)によれば(ク)の館は(ケ)の北にあって「平泉館」と呼ばれていたから、この堀の内側が「平泉館」であった可能性が高い。

こうした大規模な堀や土塁は、(ク)・(ウ)の時代に突如出現したわけではなかった。東北地方の北部では、10世紀頃の発達した環壕集落(防御性集落)の遺跡がいくつも発掘されている。東北北部は、律令国家の直接的な支配が及ばなかった地域で、対「蝦夷」戦争が行われなくなった後、蝦夷集団相互の抗争が激化したらしい。10世紀の環壕集落は、そうした情勢を如実に物語るもので、さらに11世紀の安倍・清原氏の城柵も規模の大きな防御施設をもっていたことがあきらかになっている。

奥六郡を支配するようになった安倍氏の拠点のひとつが、(コ)川の北岸、かつて朝廷が構築した(コ)城を南に望む段丘上に位置する鳥海柵(岩手県胆沢郡金ヶ崎町)である。前九年合戦(奥州十二年合戦)の様子を語る(サ)によれば、安倍(シ)の子宗任は「鳥海三郎」と称されており、流れ矢に当たった(シ)は、この鳥海柵に帰り、死んでいる。柵跡の範囲は、東西約300メートル、南北約500メートルで、自然の谷とそれを利用した堀によって区画されており、発掘調査で方形の区画、四面庇付の掘立柱建物跡や櫓のような建物跡、柵列跡などが確認された。方形を志向している点は、(コ)城をはじめとする律令国家の城柵・官衙の影響があったと考えられる。

横手盆地東部の大鳥井山と小吉山に立地する大鳥井山遺跡(秋田県横手市)は、(サ)に「出羽の光頼が子、字は大鳥山太郎頼遠」とみえることから、清原光頼(清原武則の兄)とその子頼遠の根拠地だったと考えられる。小吉山からは二重の土塁・堀と柵列が発見され、柵に沿って櫓のような建物も確認された。大鳥井山でもほぼ同規模の土塁と堀が二重に周囲を巡ることが確認され、山頂部平坦面では四面庇付の掘立柱建物と、二重の大溝も発見された。遺構の多くは11世紀、すなわち前九年・後三年の合戦と同時期のものである。大鳥井遺跡の河川に面した丘陵を土塁と堀で囲むという立地・構造は、(キ)遺跡に類似し、藤原氏は清原氏の技術を継承していた可能性が高い。なお、後三年合戦の決戦地で、清原氏が最期を迎えた(ス)柵跡(秋田県横手市)は現在調査中で、その全体像はまだ

確認されていない。

こうした10～12世紀の大規模な防御施設は、今のところ阿津賀志山の防塁と会津盆地北西部に位置する陣が峯城跡を南限としている。陣が峯城跡は、比高約20メートルの台地縁辺に立地し、周囲は二重に堀を巡らす。内部は東西約110メートル、南北約175メートルの広さで、西辺部に高さ約2.5メートルの土塁がともなう。二重堀の規模は最大で幅20メートル、深さ15メートルに達し、郭内で確認された掘立柱建物には桁行5間以上の大型建物もあった。出土遺物から12世紀前半に築かれその後半のうちに廃絶したとみられる。この地は阿賀野川が新潟県に抜ける盆地の出入口にあたり、城氏が本拠とした越後と直結していること、(セ)の日記『玉葉』に、養和元年、西暦(ソ)年、城四郎長茂が信濃の木曾義仲に敗れて「藍津之城」に逃れたという記述があることなどから、城氏と関係があると考えられる。そうだとすると、新潟県でもこの陣が峯城に匹敵するような遺構が発見される可能性があるものの、いずれにしてもこの時代、北緯37度以南、関東以西にこのような大規模な堀と土塁はみられない。

かつて多くの研究者が、平安時代末期～鎌倉時代の武士の館も堀と土塁で方形に囲まれていたと考え、それが古文書にみえる「堀ノ内」にほかならず、その堀による農業用水の統制が(タ)制成立の基盤であったと説いていた。いわゆる「堀内体制論」である。しかし、考古学者の橋口定志氏は、中世前期の館は土塁や大規模な堀をとまわらない比較的開放的な空間であったことを指摘した。方形区画の規範性は広く認められ、溝で方形に区画された館は中世の初めにも存在するものの、13世紀以前に河川から館の堀へ導水し、その水を農業用水にしている例は見つかっていない。こうして「堀内体制論」は否定され、それによって(タ)制を説明することもできなくなった。

鎌倉時代の館や城の防御施設は、騎馬武者を主力とする戦闘に対応したもので、12世紀以前の東北地方の城柵にくらべれば、小規模で簡素なものであった。洋種馬よりも小型の馬にまたがった当時の騎馬武者は、幅の狭い堀であっても飛び越えられず、塀や柵の突破も困難だったから、まず門や木戸(城戸)に殺到した。橋口氏が指摘したとおり、鎌倉時代の絵巻物に描かれている武士の屋敷(館)に、大規模な堀や土塁が見あたらないのは、存在しなかったからだと考えた方が

良い。千手観音の靈験を描いた(チ)は、12世紀後半の作品と推定されており、そこに描かれている河内国の長者の家には、堀や矢倉門、弓矢を持った武士の姿が見られることで知られている。しかし、こうした屋敷の姿が一般的であったかどうか、また描かれている堀の規模や構造がどのようなものだったか、慎重に考える必要がある。鎌倉末期に制作された(ツ)の巻1に描かれた美作の有力武士漆間時国の屋敷は、周囲に溝が廻ってはいるものの、その規模は小さく、塀は網代垣、門は簡素な平入りである。1299年に聖戒が制作した(テ)に描かれている筑前の武士の館にしても、溝と板塀に囲まれてはいるものの、防御施設らしいものは門の上の小さな矢倉のみと言ってよい。14世紀以降の城のように、角(隅)や屈曲した城壁に矢倉(櫓)を設けている例も無く、門をめぐる攻防が想定されていたことを示している。

この時代の「城」・「城郭」は、戦闘に際して臨時に構築されるもので、恒常的に維持しようとはしていない。屋敷(館)を城郭化することもあったが、信仰の対象であった山や重要な道路などに構築されることも多く、寺院を城郭化することもめずらしくなかった。(ツ)の巻26にみえる城郭は、鎌倉時代の城郭を描いたほぼ唯一の絵画である。(ト)の堂衆が鎮守である日吉神社の八王子の社壇に城郭を構え、それを武士たちが攻めている様子を描いているが、図の上方に懸造の社殿、そこから左方にたて籠もる(ト)の堂衆たち、中央の坂道に遮断施設が描かれているだけである。詞書には、堂衆が「日吉八王子の社壇を城郭とし」、鎮圧を命じられた武士が「かの城郭に向かふ」と書かれており、当時、こうしたものを「城郭」と称していたことがわかる。楯と逆茂木の組み合わせで遮断施設を構成しており、『平家物語』などに、「垣楯かき、逆茂木ひいて」と表現される城郭の姿をよく伝えている。

鎌倉後期の悪党の城郭も同様であった。13世紀末、畿内・西国で悪党が目立つようになり、例えば、(ナ)領の播磨国の大部庄では、年貢末進のため解任された前庄官が、武装した数百人の悪党、数千人の人夫を率いて庄内におし入り、年貢米から牛馬・銭など荘民の財産を奪い取ったという。同じく(ナ)領の伊賀国黒田庄では、悪党が住宅に城郭を構え、(ニ)の使節が入部する際には撤去し、使節が帰参するとまた元のように構えていると訴えられている。悪党の城

郭は、すぐに撤去できる程度の構築物であったが、(ナ)は(ニ)に、悪党を召し捕らえ、城郭を破却するよう求めているから、城郭が存在すると庄内が治まらないと考えられていたのだろう。

対モンゴル戦争(蒙古襲来)に際して、(ヌ)に構築された石造の防塁は、異国を迎撃するための国策となれば、長大な石塁も構築できる技術的ポテンシャルがあったことを示しているが、鎌倉時代の武士の屋敷や悪党の城郭に同様の技術が用いられた例は無い。国内の紛争に際して構築された例も無く、当時の武士同士の戦いには無用だったと考えられる。

鎌倉末期から南北朝期、打ち続く内乱は、合戦に参加する人々を質・量ともに拡大させ、それにより戦闘形態は変化し、城郭の構造も変化した。歩兵が城郭に攻め寄せ、堀底から城壁際へ登り、垣楯や逆茂木などを破壊するようになったのである。この時期の文書を見ると、城壁際での軍忠が多く、壁や垣を破ったこと自体を軍忠として記している例もめずらしくない。楠木正成の(ネ)城での攻防を語る『太平記』巻3「(ネ)城軍事」も、「堀ノ中、切岸ノ下マデ攻付テ、逆木ヲ引ノケテ打テ入ントシ」というように、兵が堀の中から攻め登る様子を描写しており、軍忠状にみえる戦闘の様子と一致する。こうした攻撃が一般的になると、それに対応して城壁は堅牢な板塀や塗塀が多くなり、城壁を屈折させて、そこに櫓を設置したり、落下させる岩石や木材を備えたりすることも行われるようになった。

歌合で仲間外れにされた狸が怒って戦うという異類物の御伽草子を絵巻物にした(ノ)は、精密な武装描写でも知られ、そこに描かれた狸の城も、14~15世紀の城の姿をよく伝えている。崖の上に木材を塗り込めた塀と逆茂木がみえ、櫓は木戸の上ではなく塀の屈曲部に設置されている。塀には小窓(狭間)があげられており、画面右方には括り付けられた岩石も描かれている。15世紀、いつ紛争状態になるかわからない情勢が続いた地域では、こうした城を恒常的に保持する必要に迫られ、館の防御性を増強したり、近くの山に城(当初は「要害」と称されることが多かった)を構築したりして、維持するようになる。そうして、城のある風景は日常になっていく。

問1 (ア)(ソ)に入る適切な西暦年を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 1177 ② 1179 ③ 1181 ④ 1184 ⑤ 1186 ⑥ 1187
⑦ 1189 ⑧ 1191

問2 (イ)に入る適切な書名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 『増鏡』 ② 『保暦間記』 ③ 『後鑑』 ④ 『義経記』
⑤ 『百鍊抄』 ⑥ 『吾妻鏡』

問3 (ウ)～(オ)および(ク)に入る適切な人名を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 武衡 ② 泰衡 ③ 秀衡 ④ 基衡 ⑤ 国衡 ⑥ 清衡
⑦ 忠衡 ⑧ 家衡

問4 (カ)(キ)(ケ)に入る適切な名称を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 無量光院 ② 観自在王院 ③ 富貴寺大堂 ④ 高館
⑤ 柳之御所 ⑥ 毛越寺 ⑦ 加羅御所 ⑧ 願成寺

問5 (コ)(ス)に入る適切な地名を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 磐舟 ② 伊治 ③ 胆沢 ④ 志波 ⑤ 牡鹿 ⑥ 淳足
⑦ 雄勝 ⑧ 金沢

問6 (サ)に入る適切な書名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 『大鏡』 ② 『今鏡』 ③ 『更級日記』 ④ 『将門記』
⑤ 『陸奥話記』 ⑥ 『平家物語』

問7 (シ)に入る適切な人名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 経清 ② 頼時 ③ 家衡 ④ 貞任 ⑤ 真衡 ⑥ 頼信

問8 (セ)に入る適切な人名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 九条道家 ② 大江広元 ③ 藤原家隆 ④ 三善康信
⑤ 中山忠親 ⑥ 九条兼実

問9 (タ)に入る適切な語句を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 守護領国 ② 在地領主 ③ 知行国主 ④ 守護地頭
⑤ 荘園公領 ⑥ 負名田堵

問10 (チ)～(テ)に入る適切な作品名を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 『後三年合戦絵巻』 ② 『一遍聖絵』 ③ 『春日権現験記』
④ 『石山寺縁起絵巻』 ⑤ 『粉河寺縁起絵巻』 ⑥ 『法然上人絵伝』
⑦ 『男衾三郎絵詞』 ⑧ 『北野天神縁起絵巻』

問11 (ト)(ナ)に入る適切な寺院名を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 教王護国寺 ② 東大寺 ③ 高野山金剛峰寺 ④ 興福寺
⑤ 比叡山延暦寺 ⑥ 室生寺 ⑦ 建仁寺 ⑧ 仁和寺

問12 (ニ)に入る適切な語句を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 侍所 ② 引付衆 ③ 問注所 ④ 蔵人所
⑤ 檢非違使 ⑥ 六波羅探題

問13 (ヌ)に入る適切な地名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 和賀江島 ② 隠岐 ③ 博多湾岸 ④ 相模湾岸 ⑤ 六浦
⑥ 国東半島

問14 (ネ)に入る適切な地名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 湊川 ② 笠置 ③ 天河 ④ 赤坂 ⑤ 隠岐 ⑥ 新宮

問15 (ノ)に入る適切な作品名を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 『百鬼夜行絵巻』 ② 『浦島太郎絵巻』 ③ 『酒吞童子絵巻』
④ 『十二類絵巻』 ⑤ 『絵師草紙』 ⑥ 『福富草紙』

3 次の江戸時代に関する文章をよく読んで各問に答えなさい。

1786(天明6)年将軍家治の死とともに(A)が失脚したのち、この派の呼びとと白河藩主(B)を老中に据えようとする三家・三卿との間で激しい権力闘争が繰り広げられた。これに決着をつけたのは1787(天明7)年5月の江戸・大坂をはじめとする全国の都市での(a)である。とくに江戸では、市中の米屋などに対し4日間も続く大騒動になり、幕府に強い衝撃を与えた。この結果、6月に(B)が老中に就任し改革を断行した。

まず直面したのは、凶作の連続による年貢収入の減少と飢饉対策のため幕府の蓄え金が底をつき、しかも100万両もの収入不足が見込まれるという、幕府財政の危機的な状況であった。この財政を再建するため、厳しい儉約令による財政緊縮策がとられ、大名から百姓・町人にいたるまで厳しい儉約が要求された。また、住所不定で大小の刀ももてない御家人が現れるほど経済的に困窮した旗本・御家人を救済するため、1789(寛政元)年にある法令がだされた。

この時代の改革は、飢饉が直接の引き金となった社会問題の与えた強い衝撃からはじまったもので、飢饉対策が重点的にとられた。幕府は凶作でも飢饉にならないように食糧の備蓄をはかった。諸大名にある措置を講じさせた。幕領農村には郷蔵、直轄都市にも米を貯蔵する蔵を設けたが、江戸では特別の制度を設けた。

思想面では、儒学の振興を積極的にはかった。1790(寛政2)年には(b)を正学とし、湯島聖堂の学問所で(b)以外の学派の講義や研究をすることを禁

じる措置がとられた。幕府の教学を担った林家を強化し、のちに寛政の三博士と称された(C)、尾藤二洲、岡田寒泉らの優れた儒者を儒官に登用した。また、(b)の奨励と人材の発掘・登用のため、学問吟味という試験制度も設けられた。

民間に対しては、絵双紙類で風俗に悪影響を与えるもの、世上の噂を写本にして貸すことの禁止などを盛り込んだ出版統制令がだされ、幕府政治への風刺や批判を取り締まり、風俗刷新がはかられた。洒落本作者で売薬業を営んでいた(D)や、⁽⁶⁾黄表紙作者で江戸小石川に住んでいた(E)、出版元の(F)らが弾圧された。さらに、(G)が『三国通覧図説』や『海国兵談』などで外国につ

いての対応の必要を主張したが、幕府はこれらの発行を禁止した。さらに朝廷と幕府の間に「⁽⁹⁾尊号一件」と呼ばれる事件が起こり、緊張関係が生まれた。

政治改革を必要としたのは、幕府だけではなかった。諸藩はそれぞれ独自の事情に基づいて、藩政の改革を試みた。その特徴は、藩主自らが改革の先頭についたということである。熊本藩主(H)は、有能な人材に登用し、財政の緊縮、農村の復興、藩校(c)の設立などをおこない、藩政改革の模範となった。松江藩主(I)は、農村の復興と財政の緊縮のほか、特産品(人参・陶器・紙・蠟)の生産を奨励し、殖産興業政策に目覚ましい成果をあげた。米沢藩主(J)は、藩校(d)を復興(再興)し有能な人材登用につとめ、養蚕や製紙業を奨励し、家内工業をおこし財政難を救った。秋田藩主(K)は、養蚕・織物・銅山そのほかの国産品の生産を奨励し、藩校(e)を設立し、幕政をたてなおした。これらの藩主らは名君と評されている。

問1 文中の空欄(A)～(K)に当てはまる語句を次の中から1つずつ選
びなさい。

- | | | | |
|--------|--------|-----------|---------|
| ① 水野忠邦 | ② 上杉憲実 | ③ 松平定信 | ④ 蔦屋重三郎 |
| ⑤ 堀田正俊 | ⑥ 細川忠興 | ⑦ 柴野栗山 | ⑧ 藤原惺窩 |
| ⑨ 松平慶永 | ⑩ 松平康英 | ⑪ 小林一茶 | ⑫ 上杉景勝 |
| ⑬ 細川晴元 | ⑭ 間宮林蔵 | ⑮ 恋川春町 | ⑯ 酒井抱一 |
| ⑰ 荻原重秀 | ⑱ 大岡忠相 | ⑲ 淀屋辰五郎 | ⑳ 林子平 |
| ㉑ 最上徳内 | ㉒ 島津斉彬 | ㉓ 松平容保 | ㉔ 細川重賢 |
| ㉕ 山東京伝 | ㉖ 松平治郷 | ㉗ 奈良屋茂左衛門 | ㉘ 上杉治憲 |
| ㉙ 田沼意次 | ㉚ 佐竹義和 | | |

問2 文中の空欄(a)～(e)に当てはまる語句を次の中から1つずつ選
びなさい。

- | | | | |
|---------|--------|-------|-------|
| ① 明義堂 | ② 米騒動 | ③ 明倫館 | ④ 造士館 |
| ⑤ 朱子学 | ⑥ 弘道館 | ⑦ 日新館 | ⑧ 明德館 |
| ⑨ 懐徳堂 | ⑩ 郡内一揆 | ⑪ 時習館 | ⑫ 陽明学 |
| ⑬ 打ちこわし | ⑭ 興讓館 | ⑮ 洋学 | |

問3 下線部(1)の三卿について、それに含まれないものはどれか。次の中から1
つ選びなさい。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ① 田安家 | ② 尾張家 | ③ 清水家 | ④ 一橋家 |
|-------|-------|-------|-------|

問4 下線部(2)について、この騒動は全国でおよそどれほどの主要都市で生じた
か。次の中から1つ選びなさい。

- | | | | |
|-------|--------|---------|----------|
| ① 3余り | ② 30余り | ③ 300余り | ④ 3000余り |
|-------|--------|---------|----------|

問5 下線部(3)について、この法令を何と呼ぶか。次の中から1つ選びなさい。

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| ① 儉約令 | ② 買米令 | ③ 棄捐令 | ④ 相对済し令 |
|-------|-------|-------|---------|

問6 下線部(4)について、この措置を「困米」というが、以下の各文でこの措置を正しく説明しているものを次の中から1つ選びなさい。

- ① 1万石につき50石を5年間にわたり領内に備蓄させ、さらに各地に社倉・義倉を設けさせた。
- ② それぞれの役職の役高をさだめ、それ以下の者が就任する時、在職中だけ不足文の役両(不足の石高)を足して支給する。
- ③ 大名から1万石につき100石の割合で米を上納させる。
- ④ 米価引き上げのため、諸大名らに米の買い上げを命じた。

問7 下線部(5)について、この家の祖について説明した以下の文章の下線を施した語句に誤りがある記号を1つ選びなさい。

1583年に生まれた京都の人。実名は信勝^①、号を道春と称した。師匠であった藤原惺窩^②の推薦で家康につかえ、以後、秀忠、家光、家綱の四代の侍講^③となった。法令や外交文書の起草など、幕政にも参与した。1625年^④、家塾弘文館を上野忍ヶ岡に開いた。

問8 下線部(6)の「洒落本」を説明した文章の記号部分①～④の中で誤りを含むものを1つ選びなさい。

遊里という身売り奉公の遊女を抱える遊郭が立ちならぶ地区、たとえば、江戸吉原^①、京都丸山^②、大坂新町^③などを題材とした短編小説。通人の遊びなど、滑稽と通を描く。明和・安永^④から天明期に流行したが、寛政期で弾圧をうけた。

問9 下線部(7)の「黄表紙」の作者で文中(E)の代表作は何か。次の中から1つ選びなさい。

- ① 『仕懸文庫』
- ② 『菅原伝授手習鑑』
- ③ 『夜色楼台図』
- ④ 『金々先生栄花夢』

問10 下線部(8)について、この著作の内容として正しい説明文を、次の中から1つ選びなさい。

- ① 地理書として、1786年に刊行された。日本を中心に朝鮮・琉球・蝦夷地3国を図示して解説する。
- ② 1791年に刊行された16巻の書で、ロシアの南下を警告し、海防論を展開した。
- ③ 1798年に成立した3巻本で、西洋諸国の国勢や風俗を記し、貿易の必要を人口論に合わせて説いた。
- ④ 1798年に成立した書で、国を經營し富を増やすための秘訣となる政策を説いた。天明の飢饉を経験して開国交易・属島開発などによる危機打開を提言した。

問11 下線部(9)について、この事件に関係した天皇は誰か。次の中から1人選びなさい。

- ① 靈元天皇 ② 桜町天皇 ③ 光格天皇 ④ 孝明天皇

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

明治維新後、近代化政策を進める上で、財政の安定は必須であり、新政府は、そのために、土地制度および税制の改革に着手した。

その第一歩として、(ア)年に田畑勝手作りを許可し、翌年には田畑永代売買の禁令を解き、(あ)を発行して土地の所有権を明確に認めた。そして、これをもとにして、(イ)年(ウ)月、地租改正条例を公布して地租改正^(a)に着手し、8年後までにはほぼ完了した。

こうして、近代的な租税の形式が整って、政府の財政的基盤はいったん固まった。一方、地租改正によって農民の負担は軽減されなかったため、農民は、負担の軽減を求めて、各地で一揆を起こした。その結果、当時の政府の最高実力者であった内務卿の(A)を中心とした政府の人たちは(エ)年、この年に起こった西南戦争^(b)などの士族の反乱と農民一揆が結びつかないようにすべく、地租の税率を(オ)%に引き下げた。

政府は、富国強兵をめざして殖産興業を図った。(い)が中心になって、まずは(カ)年、新橋・横浜間に鉄道が敷かれ、つづいて神戸・大阪・京都間にも鉄道が敷かれ、開港場と大都市を結びつけた。

通信においては、(キ)年に(B)の建議によって、飛脚に代わる官営の郵便制度が発足し、日本は(ク)年、万国郵便連合条約に加盟した。さらに、(ケ)年に東京・横浜間に初めて架設された電信線はその(コ)年後、長崎と北海道まで延長され、長崎・(う)間の海底電線を通じて、欧米と接続された。海運では、土佐藩出身の(C)が設立・拡張した(え)に手厚い保護をあたえた。

一方、政府は、民間工業を近代化し、貿易赤字の解消も図るべく、輸出の中心となっていた生糸の生産拡大に力を入れ、官営模範工場として群馬県に(お)製糸場を設け、(か)の先進技術の導入・普及や工女の育成を図った。なお、工女の(D)は、この製糸場での体験記を著している。

政府は、アメリカ式の大農場制度・畜産技術の移植を図ろうとして、(サ)年に(E)を招いて、札幌農学校^(c)を開校した。

問1 文中の空欄(A)～(E)に当てはまるもっとも適切な人名を、次の中から1つずつ選びなさい。

- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| ① 木戸孝允 | ② ケプロン | ③ 渋沢栄一 | ④ 大久保利通 |
| ⑤ 岩崎弥太郎 | ⑥ 尾高勇 | ⑦ ホイラー | ⑧ 大倉喜八郎 |
| ⑨ ブルックス | ⑩ 井上馨 | ⑪ 横田英 | ⑫ 岩崎弥之助 |
| ⑬ 福田英子 | ⑭ 岩崎小弥太 | ⑮ 大隈重信 | ⑯ クラーク |
| ⑰ 松方正義 | ⑱ 前島密 | ⑲ 黒田清隆 | ⑳ 細井としを |

問2 文中の空欄(あ)～(か)に当てはまるもっとも適切な語句を、次の中から1つずつ選びなさい。

- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| ① 安中 | ② ドイツ | ③ 工部省 | ④ 登記券 |
| ⑤ マニラ | ⑥ 富岡 | ⑦ 安田 | ⑧ アメリカ |
| ⑨ 民部省 | ⑩ 台帳券 | ⑪ 釜山 | ⑫ 三井 |
| ⑬ 地券 | ⑭ 青島 | ⑮ フランス | ⑯ 桐生 |
| ⑰ イギリス | ⑱ 三菱 | ⑲ 太田 | ⑳ 商部省 |
| ㉑ 住友 | ㉒ 産部省 | ㉓ 土地券 | ㉔ 上海 |

問3 文中の下線部(a)~(c)の項目にもっとも関係が深く、かつ内容が正しい事柄を、次の中から1つずつ選びなさい。

- ① 駒場農学校の分校でもあった。
- ② 鹿児島ของ学校生などの士族が挙兵して、始まった。
- ③ 課税の基準は、毎年の収穫高であった。
- ④ 内村鑑三は、卒業生であった。
- ⑤ 小作農は、耕作権が認められた。
- ⑥ この年の1月に始まった。
- ⑦ 20世紀初めに廃校となった。
- ⑧ 耕作者を納税者とした。
- ⑨ この年の9月に終わった。
- ⑩ 学生たちのあいだで北海バンドがつくられた。
- ⑪ 物納から金納に代わった。
- ⑫ 熊本城を陥落させた。

問4 文中の空欄(ア)~(サ)に入る数字は、どれか。もっとも適切なものを、次の中から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

- ① 1 ② 1.5 ③ 2 ④ 2.5 ⑤ 3 ⑥ 4
- ⑦ 5 ⑧ 6 ⑨ 7 ⑩ 8 ⑪ 9 ⑫ 10
- ⑬ 11 ⑭ 12 ⑮ 1868 ⑯ 1869 ⑰ 1870 ⑱ 1871
- ⑲ 1872 ⑳ 1873 ㉑ 1874 ㉒ 1875 ㉓ 1876 ㉔ 1877
- ㉕ 1878 ㉖ 1879





